

る方向性の第2は、前節の非時系列数値情報に関連したものである。新聞、雑誌の記事内では、種々の数値情報が出現しては消滅していく。このような数値情報をコンピュータで自動的に抜き出し、適当なキーワードを付してデータベースを作っていくことはできないであろうか。完全な自動化は、構文解析とか意味解析とかいった手法の完成を待たねばならないが、画面編集などで人間が補助することにより蓄積していく方法が考えられるはずである。文章情報から数値情報を抽出する方法は、たとえば共産圏に関する情報収集には、きわめて大きな力を発揮すると考えられる。

現在、国内新聞に関しては、朝日新聞、日経新聞が電算化を行っており、コンピュータ・リーダーな全文記事情報が安価な副産物として生産される段階に入ってきた。そろそろこのような文章情報を幅広く利用するためのデータベース・システムを真剣に考えてもよいのではなかろうか。

5. おわりに

以上、エネルギー経済のためのデータベースを時系列数値情報、非時系列数値情報、文章情報の3者に分けて考えてきた。時系列数値情報と文章情報は、一見してまったく相関がないようにみえる。しかし、この間に非時系列数値情報を置くことにより両者の橋渡しを行ない統合して考えることはできないであろうか。コンピュータは今後ますます小型化し、外部記憶容量も近い将来いっそうの小型化と増量がなされることは確実である。日本語による端末装置も今後ますます良い機械が登場するであろう。非時系列数値情報を中心にして、時系列数値情報と文章情報を併合して日本語による総合エネルギー・データベース・システムを研究所の一室で利用することを夢見る今日このごろである。



●経営コンサルタント●

●第23回 日時：2月6日(土) 14:00~17:00 場所：東京都勤労福祉会館 テーマ：「経営のシステムをリサーチする」 出席者全員で自由討論を行なった。

システムとは人間の英知が創造した虚の實在である。このシステムなる考え方の活用により、複雑多岐で変転きわまりない現実を私たちは把握し、理解し、行動し、問題解決して積極的におのれを生かしながら適応することが可能になる。経営にシステムなる生きた考え方がいかに取り入れられ、また活用されているかについて、古代イスラエルや中国からはじめて、現代におけるシステム思考の先駆者であるパーナード等ならびに現代の現実の経営について語りあった。

●予測とその周辺課題●

●第21回 日時：2月24日(水) 18:00~21:00 場所：

電力中央研究所 参加者：7名 テーマ：(1) 将来の予測と予測の将来 (中村氏)

予測の問題点を適格に論じ、予測課題別にかなる予測技法が適合するかを述べ、広く技法の概括を行なう。

(TIMS文献輪読)

(2) 日本経済の成長モデル (村中氏)

クラインによる日本の成長の計量経済モデルを紹介。

●環境システム●

日時：2月17日(水) 18:00~20:00 場所：日科技連
出席者：6名 議題：エントロピー理論と生態学(11)

有水 疆 (林業試験場)

生態系の法則としては、(1) natural preservation (2) climax (3) ecological naturalism (4) self-regulation が考えられる。

2. Best Choice Problem の微分方程式

安田正実 (千葉大)

動的計画法を用いて微分方程式を導き、最適政策の形と種々の問題を解いた。